

人面墨書土器（じんめんぼくしょどき）

更新日：2019年5月29日

人面墨書土器とは墨で人の顔を描いた土器のことをさします。大野城市では仲島遺跡の東端部、御笠川の氾濫原の砂の中から3点の土師器の人面墨書土器が見つかっています。そのうち2点は丸底（まるぞこ）の土師器（はじき）の鉢、残りの1点は土師器の甕に書かれていました。



人面の意味

人面墨書土器は奈良時代から平安時代初めにかけて見られます。最も多く出土するのは奈良時代の都である平城京（へいじょうきょう）ですが、九州では仲島遺跡以外には、佐賀市の出土例が知られるのみです。いずれも多くが川や溝の中から出土しています。人面は疫病神（やくびょうがみ）を表現したものといわれ、病気になった人が息を吹き込み、川や溝に流したものと考えられています。人面墨書土器以外には人形や土馬などがあります。

当時の人間の心を探る貴重な資料です。

[人面墨書土器（じんめんぼくしょどき） | 大野城市 \(city.onojo.fukuoka.jp\)](http://city.onojo.fukuoka.jp)